

大阪市立 三先小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校教育目標

深く考え やり通す 心豊かな三先の子

2 特に大切にしたい教育活動

- 認め合い、思いやりの心を持って行動する子どもを育てる。
- 指導方法や指導体制を工夫し、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、自ら学び自ら考える力を育てる。
- より良い食生活や健康な心身への関心を高めるなど、自主的に健康・安全を管理し、改善していく子どもを育てる。

3 学校運営の中期目標

現状と課題

<学力面>

平成25年度の全国学力・学習状況調査の結果から、国語では、下の学年で習得しておくべき基礎的・基本的事項の定着に不十分なものが見られた。国語B問題の結果は、全国より高い正答率となっている。しかし、文章を読んで自分なりの意見を書く力は付いてきているが、引用したり複数の内容を関連付けたりしながら自分の考えを書くことについては、まだまだ課題が見られた。算数では、A問題の結果を見ると、全国平均とほぼ同等であり、数と計算・数量関係の領域で特に高い値を示していた。B問題は、ほとんどの項目が全国平均を上回っており、特に図形の領域で高い値を示している。しかしながら、生活の様々な場面に活用する力は不十分と言える。

「学習理解度到達診断」は、算数ではほぼ目標数値を達成したものの、国語では、学年内ではばらつきがあるだけでなく、目標数値も達成できなかった。

<健康・体力面>

平成25年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果からは、「握力」や「ボール投げ」では全国平均を上回っているが、他の種目は下回っており、特に男子では、「反復横跳び」「20mシャトルラン」、女子では「長座体前屈」「反復横跳び」で、全国との差が顕著となっていた。体育の授業では、「授業が楽しい」「運動が好き」「丁寧に教えてもらえる」と回答する児童が多いが、女子では『運動離れ』が、男子では『運動の二極化』が進んでおり、授業で「できた・わかった」という達成感を持たせる指導を工夫するとともに、健康の保持増進や体力の向上が自分にとって大切なことであることを知識として理解できるようにする必要がある。

毎日の朝食や睡眠時間については、日々の児童観察を十分に行い、学習指導や保健指導・食育についての指導などを以前から行ってきたことが成果となって表れてきている。また、「給食だより」や「がんばりカード」の活用により、好き嫌いなく食べようとする意識も高まっている。しかしながら、正しい姿勢についての意識付けや実践については、まだまだ課題が見られた。

<道徳心・社会性の面>

自らすすんであいさつをする児童の割合は高く、これまでの指導の成果が出ている。また、「三先防災の日」の学習等を通じて、防災意識も高まってきている。自尊感情を

を高める取り組みやいじめについては、道徳の時間だけでなく、学校教育活動全体を通じて継続指導しているが、「いじめ0」には至っていない。

＜特別支援教育に関して＞

「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、個に応じた指導に努め、それを活かした研修会も実施できた。今後は ICT 機器等も利用しながら、よりよい支援活動を模索していく。

＜学校・家庭・地域との連携に関して＞

ホームページや学校だより・学年だより等を通して、学校行事や学年での取り組み、委員会活動、保健指導、給食のようす、児童朝会や児童集会の児童のようす等を随時知らせ、情報公開を行った。

＜教員の研修の充実＞

全教員が年1回研究（公開）授業を行っており、学年や研究推進委員会で指導方法について論議を重ね、指導後も研究討議会等を行うことで、指導力の向上を図ってきている。若手研修も伝達研修を中心に年5回程度実施している。

中期目標

【視点 学力の向上】

- ① 平成27年度の全国学力・学習状況調査において、国語・算数ともに全国平均を上回る。（カリキュラム改革）
- ② 児童や保護者アンケートの基礎・基本の定着に関わる項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と答える割合を80%以上とする。（カリキュラム改革）
- ③ 平成27年度中に、全学年で英語の参観授業が実施できている。（グローバル改革）

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成27年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、実施する学年（3～6年）の合計得点の平均点を25年度より5点上回る。（カリキュラム改革）
- ② 健康な生活習慣のための保健研究・食育の充実（カリキュラム改革）

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 「いじめ0」に向けて、組織的に対応し解決できる体制をつくるとともに、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる児童を育てる。（マネジメント改革）（カリキュラム改革）
- ② 児童・家庭・地域が一体となった組織的な防災体制と訓練ができている。（マネジメント改革）（カリキュラム改革）

【視点 特別支援教育の充実】

- ① 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活かした研修会を年2回実施する。（マネジメント改革）

【視点 学校・保護者・地域の連携の推進】

- ① 学校ホームページや学校だより・学年だより等による広報活動を充実させ、平成27年度末「保護者アンケート」において「学校は情報公開を行っている」と答える保護者の割合を80%以上にする。（ガバナンス改革）

【視点 教員の研修の充実】

- ① 全教員が年1回研究・公開授業を行う。（マネジメント改革）
- ② 若手研修を年5回以上実施し、伝達講習等を通して指導力の向上を図る。（マネジメント改革）

4 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ① 今年度の「学習理解度到達診断」において、国語・算数の全体平均点が、低学年は80%、中学年は75%、高学年は70%を上回っている。(カリキュラム改革)
- ② 今年度末の「学校アンケート」で、児童用の「国語がわかる」「算数がわかる」、保護者用の「読み・書き・計算などの基礎学力がしっかり身につけている」の項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と答える割合を70%以上とする。(カリキュラム改革)
- ③ 今年度末の「学校アンケート」(保護者・児童用)で、「家で自分から進んで学習している」と答える割合を70%以上とする。(カリキュラム改革)
- ④ 全学年において、「外国語(英語)授業」が、年間指導計画に基づいた時数を確保して実施できている。(グローバル改革)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、実施する学年(3～6年)の合計得点の平均点を25年度より上回る。(カリキュラム改革)
- ② 今年度末の「学校アンケート」(保護者・児童用)で、「授業中に(家庭で)正しい姿勢を心がけている」と答える割合を70%以上とする。(カリキュラム改革)
- ③ 今年度末の「学校アンケート」(保護者・児童用)で、「給食を残さず食べようとしている」「家庭で好き嫌いなく食べ、良い食習慣が身につけている」と答える割合を70%以上とする。(カリキュラム改革)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 平成26年度末の校内調査において認知した「いじめ」について、解消に向けて対応している割合を100%にする。(カリキュラム改革)
- ② 自ら進んであいさつができる児童の育成を図り、本年度末『学校アンケート』で「自分から進んであいさつができている」と答える児童の割合を85%以上にする。(カリキュラム改革)
- ③ 年間を通して計画的に防災教育を行い、児童アンケートで「学校や家庭・地域で地震が起こったときどう行動したらいいか知っている」と答える児童の割合を90%以上とする。(カリキュラム改革)

【視点 特別支援教育の充実】

- ① 児童の実態を把握し、一人一人のニーズに応えるために、保護者との話し合いを活かして「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成する。これを活かして全教職員で共通理解を図り、具体的な指導、支援方法の研修会を年2回実施する。(カリキュラム改革)

【視点 学校・保護者・地域の連携の推進】

- ① 学校ホームページや学校だより・学年だより等による広報活動を充実させ、平成26年度末「保護者アンケート」において「学校は情報公開を行っている」と答える保護者の割合を80%以上にする。(ガバナンス改革)

【視点 教員の研修の充実】

- ① 全教員が年1回研究・公開授業を行う(マネジメント改革)
- ② 若手研修を年5回以上実施し、指導力の向上を図る。(マネジメント改革)

3 本年度の自己評価結果の総括

〈学力面〉年度目標通りに達成した。

- ① 今年度の学習理解度到達診断では、中学年の国語・算数、高学年の国語・算数・社会で目標値を達成した。
- ② 今年度末の学校アンケートで、児童用の「国語がわかる」「算数がわかる」、保護者用の「読み・書き・計算などの基礎学力がしっかり身につけている」の項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた割合は、71%・91%であり、年度目標を達成した。
- ③ 今年度末の児童用学校アンケートで「家で自分から進んで学習している」と答える割合は 65%で年度目標の 70%以上は達成できなかった。一方、保護者用学校アンケートで「家庭で学習の習慣をつけるように努めている」という設問に対する肯定的な回答は 84%であり、年度目標を達成した。
- ④ 全学年において、「外国語（英語）授業」が、年間指導計画に基づいた時数（低・中学年は年間 6 時間・高学年は年間 35 時間）を確保することができた。

〈体力面〉年度目標通りに達成した。

- ① 平成 26 年度の「新体力テスト」において、実施した学年（3～6 年）の合計得点の平均点は 25 年度より上回った。今年度の「新体力テスト」の結果を検証シートを基に分析し、次年度の取り組みの方向性の共通理解を図り体力向上に向けて取り組みを進める。
- ② 正しい姿勢について、毎月の清潔検査の結果から、79.3%の児童が良い姿勢を意識できているという結果が分かり年度目標を達成した。保護者のアンケートでは「正しい姿勢を心がけて生活している」という項目であったが 70%と肯定的な回答があり年度目標は達成した。しかし対象となる姿勢のバラつきがあったかもしれない。次年度は意識の統一がはかれるように、「学習している時」や「食事をしている時」の姿勢について意識を図る必要がある。
- ③ 今年度末の「学校アンケート」（保護者・児童用）で、「給食を残さず食べようとしている」に肯定的な回答をした児童が 94%、「家庭で好き嫌いなく食べ、良い食習慣が身に付いている」に肯定的な回答をした保護者が 87%で年度目標を達成することができた。今後も栄養指導を継続して行い食育を充実させるとともに、残り数%の児童への個別指導を継続して行う。

〈道徳心・社会性の面〉年度目標を上回って達成した。

- ① 平成 26 年度の校内調査において認知した「いじめ」等の生活指導上の諸問題について、日々の児童の様子を把握することに努め、学年・生活指導部・管理職が情報共有し、保護者とも連携しながら指導を行ってきた。問題が起こったときは、すぐに対応し、その後も継続的に見守っている。
- ② 学校アンケートでは、児童生徒で 94%、保護者で 91%と年度目標を達成しているが、それほどあいさつがしっかりできているという実感はない。これは、「あいさつがしっかりできている状態」に対する認識の違いと考えられる。今後は児童には、相手にとって気持ちのよいあいさつとはどのようなものかを考えさせていく必要がある。あいさつ運動の他にも学校生活全体で気持ちのよいあいさつについて啓発していく。
- ③ 年間計画に従って計画的に防災教育を行った。児童アンケートで「学校や家庭・地域で地震が起こったときどう行動したらいいか知っている」と答える児童の割合を 98%で目標を達成した。今後、6 年間を見据えた継続的な安全・防災教育のカリキュラムを整備する。また、毎年内容を変えたり、校内だけでなく地域にも活動を広げたりして、防災意識が高まっていくように活動内容の改善・工夫をしていく。

〈特別支援活動に関して〉年度目標通りに達成した。

- ① 児童の実態を把握し、一人一人のニーズに応えるために、保護者との話し合いを活かして作成した「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活かして全教職員による全体研修会を年 2 回実施し、具体的な指導や支援の方法について共通理解を図ることができた。

〈学校・家庭・地域との連携に関して〉年度目標を上回って達成した。

- ① 学校ホームページや学校だより・学年だより等による広報活動を充実させ、年度末「学校アンケート」において「学校は情報公開を行っている」と答える保護者の割合を 94%で年度目標を達成することができた。

〈教員の研修の充実〉年度目標を上回って達成した。

- ① 教員が年 1 回以上、研究・公開授業を行い、研究を深めることができた。これまでの研究を振り返り見えてきた児童の課題を分析し、次年度の研究に活かすようにする。
- ② メンターを中心に若手教員は自分たちのニーズに応じた実技研修や伝達研修を実施して教師力の向上を図ることができた。